

日本の竹ファンクラブ通信

編集・発行 日本竹類総合研究所・特定非営利活動法人日本の竹ファンクラブ

横浜市都筑区中川1-4-1 ハウススクエア横浜4 階 TEL&FAX: 045-306-9993 MAIL: office141@takefan.jp URL: http://takefan.jp

現在の会員数 正会員 129名/準会員 10名/賛助会員 個人 20名・団体 2・法人 3 (竹取協力隊 107名)

持続可能な森林資源の維持と活用！

国連の持続可能な開発目標とファンクラブの活動

2015年9月、持続可能な社会の実現に向け、世界が取り組むべき17分野の目標を掲げた国連の持続可能な開発目標（SDGs）が採択されました。日本政府も2016年12月、優先して取り組む8つの課題と具体的施策を決定しました。SDGsの内12番、持続可能な生産・消費と15番の生態系の保護、持続可能な利用、森林の持続可能な管理が当会の活動と重なり、今後の活動に役立てたいと思います。

持続可能な開発目標の達成

が世界共通の目標となる中、ファンクラブもミッション達成に向け活用、これまでの活動を、さらに発展させるため、新しい分野にも挑戦していきたいと思えます。

◆ファンクラブのこれまでの活動は一年を通じた竹林管理をメインにして、発生した資源活用としては竹灯籠、竹チップ、たけのこ掘り等の一次的な素材の活用にとどまっています。しかし、これまでの活動を続けるだけではこれ以上の進展は難しく、放置竹林の解消という社会的課題

を解決することは難しいのが現状です。

加えて、会員の高齢化、活動資金の減少、フィールド提供者の減少等むしろ悪い材料が目白押しです。

◆活動が踊り場を迎えた今、再び竹の復権、会の活力再生を目指すには新たな持続可能な竹林管理、竹資源の利用を推進する必要があります。これまでとは違う切り口、展開で、竹がもつと使われるように、筍がもつと食べられるように、竹が経済的価値を生むような仕組みづくりが急がれます。

◆今後の指針として、竹活用

のための二つのプロジェクトを立ち上げ、竹の新たな需要の創出を目指します。

(1) 竹のバイオマス資源としての活用：石油資源から植物資源に代替することで環境にやさしい持続可能なエコプラスチックの開発を進める。
(2) 筍の加工食品を開発：食べられなくなった筍を手軽に食べられるような加工食品を開発する。

◆委託生産等を通じて多様な商品開発を行い需要の創出を図る。開発目標としては

(1) 竹の持つ抗菌性を活用

した日用品(箸、マグカップ、トレイ、皿、おもちゃ等)を中心とするバイオプラスチック容器を製造・販売する。

(2) 筍を具材に使用したトルト食品、フリーズドライ食品、乾燥食品、菓子類等の加工食品の製造・販売をする。

◆新たな需要の創出が実現することで間伐材の利活用が進み、筍の消費が普及し、経済価値が生まれ、整備面積が拡大し、生物の多様性が復元したアウトカムを目指したい。

竹は他の植物にない特性を持ち、持続可能な資源として有望です。竹の有効な活用を図り、消費拡大を図ることで竹林整備が進み、放置竹林問題も解決に向かうものと確信します。

理事長 平石 眞司

竹取協力隊からの報告

小机城址支部

6月は春シーズン最後の作業日となりました。第三京浜側のJエリアのチップ作業班、全エリアの若竹の間伐・お礼肥撒布作業班に分かれ作業しました。



Jエリアのチップ作業班は、以前から積み重ねてあった古竹を次々にチップパー機に放り込み、ほぼすべての古竹を処理できました。ここは竹穂垣用に保管した枝がありましたが既に枯れていて、これも処理しました。

不用な若竹も間伐して回りましたが、本数としては余り伐採する物は有りませんでした。



活動日 6/24 参加者：13名

午後からは、チップパー作業班も合流し、米ぬか2袋を使用し、スコップで穴を掘り、ふたつかみほどを入れて、再度土をかぶせていきました。化成肥料も2袋を使用し、各エリアの上の方から、来年の春のタケノコの豊作を祈りながら、豆蒔きのようにばらまきました。修了後、学校受講生と暑気払いへ、秋作業に向かい鋭気を養いました。

報告：榮 千彰

横浜国際プール支部

6月4日(日)梅雨入り前、午前中は東端モウソウチクの間伐をしました。以前から直下にある盆栽生産農家から、冬場の低い太陽でも盆栽に陽が当たるように法面上部の竹を伐採して欲しいとの要請でこれを進めてきたが、さらに本数を少なくしてほしいとの再度要請でこれに対応した作業となった。新葉に生え変わった時期の法面は落葉で滑りやすく、踏ん張っての作業となりました。



午後は全域で若竹伐採処理を進めたが、昨年終了した東屋エリア階段脇

報告：根岸秀行



活動日 6/4 参加者：11名

「ごも」の国支部

5月6日伊豆新聞に南伊豆で120年に1度咲くとされている「淡竹の花が咲いている」と報道されていました。

そう言えば2年前の竹フアン通信7月号に「横浜青葉区でも淡竹開花が確認された」と有った事を思い出しました。

5月23日竹取協力隊の作業が終わった後、子どもも国も青葉区、総合グラウンド周辺の淡竹林を開花した花が有るのかを見て回りましたが確認出来ませんでした。



6月13日は淡竹林の密度管理を行う予定でした。

だが、筍の出が少なかったため、下草刈りと細い竹の除去を行い美観整備をしました。6月27日夏休み前の最後の活動日は、午前中に総合グラウンド西側真竹林の下草刈りと細く伸びた真竹伐りを行いました。

午後は奥の工作所をお借りして反省会と親睦を兼ねてBBQを行いました。取り立ての淡竹で作ったカップ酒の美酒を味わいましたが、充実の一日でしたので、竹林整備を続けられる喜びに感謝しながら楽しめました。

報告：中元秀幸



活動日 5/23、6/13・27 延参加者：56名

竹取協力隊からの報告

中井町支部



当期間の活動は、フィールドの中心より南側下の再整備区域を中心に、間伐・運搬・焼却・チップ処理等の作業を行っています。

また、この期間の6月10日はイベント「マダケのたけのこ狩り」を行いました。今回から中井町の企画は、現地集合・現地解散と変更され、コースは中井町役場より半分形竹林まで往復徒歩の予定もあつたのか参加者は少数の14名でしたので、車で来られた参加者の厚意を頂くことができて、

徒歩を止め車で移動することができました。

ここ数年筍の成育が低調でこの企画を中止してきましたが、昨年より再開、2日間の計画に対して昨年も収穫量は少なく残念ながら1日だけの実施となりました。しかし、

今年は5月下旬頃よりタケノコの成育が今までにない勢いで成長し、当日参加されました皆様には筍狩りの体験とお持ち帰り頂く本数も数年ぶりに十分満足いただくことが出来ましたので、予定より早めの解散となり無事に終えました。

報告：石川正壽



活動日 6/8 (雨天中止)・10・22
延参加者 41名

伊豆の国支部

5月20日(土)は、神奈川から18名、伊豆側から市職員含め11名が参加し、前回に続き野積された枯竹の粉碎に参加者全員で奮闘しました。めずらしくハブニングがありました。



積み上げた枯竹の下からまだ冬眠中なのですよ。うか、へびが3匹驚いて出てきて目をキョロキョロ、眠そうに我々の方をひとにらみして悠々と逃げていきました。

午後は本立寺裏側の真竹林に初挑戦しましたが、地元の方々が言うには30年ぶりの手入れらしく、新エリア開拓として

入り苦戦しました。

6月17日(土)は神奈川から15名、伊豆側8名で前回に続き真竹林の整備で、粉碎作業と一部孟宗の枯竹の伐採作業でしたが、この季節ともなると伊豆韮山はもう夏で大変暑くみなさん玉



活動日 5/20、6/17 延参加者 52名

の汗を流しました。

田植えがやっと終わった直後でもあつたが地元の方皆さんお疲れのところを有難うございました。期待していた真竹と淡竹の筍は残念ながら不作でした。

報告：五十川健郎

竹取援農隊からの報告

都筑折本

かつての急傾斜地放置竹林は間伐や枯竹集積とチップ化そして全体の整備が竹取援農隊の手で前回一段落しました。

その後、初作業となつた6月3日は若竹の伐採処理と農道際に竹垣を作りました。竹林は極小のタケノコが細竹になり、ヒョーイ！という感じの生長です。竹垣と二班に分かれての作業でしたが、竹稈の伸びは枝から笹葉が出る前でもまだ柔らかく楽でした。短尺に切つてその場に横にしておけば、夏の間は腐ってしまいません。

竹垣の施工は暫く中断でしたが、今回で当初予定の部分を仕上げるべく着手しました。親柱と間柱用の支柱単管を大ハンマーで打ち込むにも、古畳が二段重ねで捨ててあり、これを移動してからの困難な作業でした。

その後は胸縁と立子も順調に進み22mが完成しました。

竹取援農隊の素晴らしい技術が存分に発揮でき、この成果で下の竹林が一段と輝く日が遠くないことを予感させる日になりました。

報告：根岸秀行



活動日 6/3 参加者 10名

竹林管理コース

今回はまず竹林の調査から。外から観察、そして中に入って観察。次に、実際に太さや密度を計測して今の状態を理解し、目指す竹林にむけ計画します。そして楽しみみの鋸の出番になります。

午後の実習はお礼肥。裏年にもかかわらず穂先筍と竹水をくださった竹林様に感謝！有機肥料の米糠は表面に蒔いても地面



に落ち固まってしまうので、地下茎を避けて30センチ程穴を掘り時きました。化成肥料は花咲じいさんよろしくばら蒔き、斜面は竹の土留めの上側に置きました。

北山田地区センター「竹と遊ぼう」

夏の始まり「竹と遊ぼう」は7月1日に開かれました。10組の定員でしたが今までの評判がよろしく伝わったのか、あとから5組が追加されたそうです。その程度の増加であればこちらは全く問題なし。始めて見れば親子15組31人の地下工作室は部屋いっぱい熱気に包まれ、二人とも汗タクでしたが、何とか頑張ることが出来ました。



斜面に施した竹の土留めには落葉や肥料が集まるので良い筍が出るそうです。ところで筍畑の作業中、先生が「珍しいもの見つけた！」と、嬉しそう。畑から外に向かって地下茎の先端が数本、斜面を伸びあがっていました。筍の先端のようにもめる地下茎の先は力強く地を這い、木漏れ日にキラキラと輝いていました。何だか良いこと有りそう…。

報告：小川陽子

■第3回6月24日
講義：竹林の管理と育成
実習：若竹の伐採とお礼肥
講義場所：城郷小机地区センター
実習場所：小机城址市民の森
講師：平石眞司
参加者：15名

竹細工教室「水鉄砲」

横浜国際プール



今回は地区センターのアンケートが行われ、結果を頂き参加者の声を聞くことが出来ました。「卒園記念に買ったナイフが使いたかった」など6件ありました。竹筒水ようかんについては、「竹から水ようかんが出てくるのにビックリした」、「普段味わえないものなので、驚きでとてもおいしかった」などがありました。これからも今回を参考に、親子が遊べる夏の間になるように、楽しく頑張ります。

報告：依田八重子
中元 秀幸



竹トンボはスーパー竹トンボの半完成品を持ち込んで組立て、100m程先の滝ヶ谷公園で皆さんで飛ばしました。

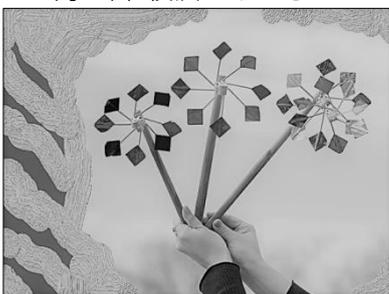
親子で「風ぐるま」

(株)タッドウェイの25周年への協力で、未就学児対象の風車づくりを行いました。1時間程度を3回行い、30組の親子が参加しました。初めに主催者の方が竹クイズを出し意外な竹のちからに、皆さん驚いた様子でした。

事前に用意した折り紙やスパンコールを貼って仕上げ、大人も子供も真剣に貼りあげると、「出来た！」と見せてくれました。綺麗に回る風車に走り出す子もいました。珍しい竹の風車にみなさん喜んでいただけてよかったです。参加者：平石・市川・依田・野茂

報告：野茂史香

8月5日 横浜バイクオーター



報告：木野内俊雄

小机城址市民の森「竹灯籠まつり」

本年も10月28日(土)(雨天順延)「竹灯籠まつり」を開催します。

準備も含め作業日数が多くなりますので、みなさまの参加ご協力をお願いいたします。

■実行委員長、副委員長運営のもと開催します

- ・実行委員長 : 山根泰裕
- ・実行副委員長 : 真板保昌 ・ 木野内俊雄

■ボランティアスタッフ募集中

別紙ボランティア申込書で事務局にお申込みください。(竹灯籠づくり～竹灯籠設置～前日準備～まつり～翌日午前中の片付け)

■物販(竹関連品)及び飲食出店受付中(会員限定)

出店ご希望の方は、店・品名と提供予定数を記して事務局までお申込み下さい。

出店場所:本丸広場

平成29年度総会が開かれました

6月18日 新横浜国際ホテルで総会と懇親会を開催しました。参加総数37名の参加で、1号議案平成28年度事業報告並びに収支決算の報告が平石理事長から、監査報告が溝口監事からありました。また2号議案平成29年度事業計画並びに収支予算書が発表され、各議案が可決されました。緑化貢献賞の表彰式後「多摩丘陵の自然と植物」と題し、元東京大学特任研究員北川淑子さんの首都圏里山が抱える現状と課題の講演がありました。その後懇親会となって新入会員の紹介や、久しぶりにお会いできた会員の近況報告などに会場は和やかな雰囲気になって、盛況のうちに終了しました。



竹取協力隊 スケジュール変更のお知らせ

伊豆の国市葦山竹灯籠まつりを中止します。上記に伴い以下のように変更します。



■作業中止日

- ・9月23日(土祝) ・ 11月3日(金祝)
- ・11月5日(日) ・ 11月18日(土)
- ・11月19日(日) ・ 11月20日(月)

■活動日(10月～12月)

6ページの予定表をご覧ください。

竹の学校竹林管理コース

第三回目は、平成28年度必修講座の未受講6名の方が履修し、全講座修了となりました。

相野谷くみ子、清木優美子、宮澤知実、林 国雄、國松秀行、松本 彰 (敬称略)

「竹の技」NYの美術館で工芸展

ニューヨークのメトロポリタン美術館で、日本の竹工芸を紹介する特別展が6月13日から開催されている。



歴史や文化的背景を含めて竹工芸を包括的に解説する展示は米国で初めて。会場では人間国宝の竹工芸家、藤沼昇さん(71)が竹の特徴を説明しながら、均等に細く裂く技を実演した。

展示品はアーサー・アビー氏が所有する約90点のかごや置物を日本の産地別に紹介。和室や生花と組み合わせる文化的背景が分かるように展示し、若手作家による高さ3メートルの大型オブジェを会場の入り口に設置したりしている。

2018年に日本で同内容の展覧会開催を目指している。

(6/13 日本経済新聞、6/24 福島民報)

新入会員紹介

下線は竹取協力隊入隊者

◆なし



世界中で温暖化による影響が猛威を振るい、九州北部や東北の豪雨では大きな被害が出ました。被災された皆様方の一日も早い復興をお祈りいたします。

早くも秋号の通信発行となりましたが、日本はいまボランティア活動やCSR活動が当たり前のように定着しました。

秋の活動に向けて、企業や団体から参加の話がありますが、地球温暖化もボランティア活動も、高く大きな波の如く変化を続けています。事務局は皆様のご協力を得て、秋号を発行できましたが、次号まで4か月あるので少し気が休まります。

予定表

※**学校管**：竹の学校「竹林管理コース」 ※**協力隊**：竹取協力隊の定例活動 ※**援農隊**：竹取援農隊の定例活動

※**イベント**：詳細はチラシ又はホームページでご覧ください

10月1日(日) 協力隊	横浜国際プール 竹林の生育調査と間伐 10:00~15:00
10月7日(土) 協力隊	小机城址市民の森 竹灯笼作り 10:00~15:00
10月8日(日) 協力隊	小机城址市民の森 竹灯笼作り 10:00~15:00
10月9日(月祝) 協力隊	伊豆の国市 葦山 竹林の間伐 10:00~15:00
10月10日(火) 協力隊	こどもの国 竹林の間伐 10:00~15:00
10月12日(木) 協力隊	中井町 竹林の間伐 10:00~15:00
10月14日(土) 協力隊	小机城址市民の森 竹灯笼作り 10:00~15:00
10月15日(日) 協力隊	小机城址市民の森 竹灯笼設置 10:00~15:00
10月21日(土) 協力隊	小机城址市民の森 竹灯笼設置 10:00~15:00
10月22日(日) 協力隊 学校管	小机城址市民の森 10:00~15:00 竹灯笼設置 竹林の間伐と竹灯笼立て
10月24日(火) 協力隊	こどもの国 竹林の間伐 10:00~15:00
10月27日(金) 協力隊	小机城址市民の森 まつり前日準備 10:00~15:00
10月28日(土) 協力隊	小机城址市民の森 第14回竹灯笼まつり 9:00~21:00 (予備日29日)
10月29日(日) 協力隊	小机城址市民の森 まつり材片付け 10:00~12:00 (予備日30日)
11月4日(土) 援農隊	都筑折本 竹林の整備 10:00~15:00

11月9日(木) 協力隊	中井町 竹林の間伐 10:00~15:00
11月11日(土) 協力隊 学校管	小机城址市民の森 10:00~15:00 竹林間伐と竹灯笼処理(集積・割り) 竹林調査・間伐、竹垣改修(竹穂垣)
11月12日(日) 協力隊	伊豆の国市 葦山 竹林の間伐 10:00~15:00
11月14日(火) 協力隊	こどもの国 竹林の間伐 10:00~15:00
11月23日(祝木) イベント	中井町 10:00~15:00 竹林の間伐とミカン狩り
11月25日(土) 協力隊	横浜国際プール 竹林の間伐 10:00~15:00
11月26日(日) 協力隊	小机城址市民の森 竹林の間伐と竹灯笼処理(集積・割り) 10:00~15:00
11月28日(火) 協力隊	こどもの国 竹林の間伐 10:00~15:00
12月2日(土) 援農隊	都筑折本 竹林の間伐 10:00~15:00
12月3日(日) 協力隊 学校管	小机城址市民の森 10:00~15:00 竹林の間伐と竹灯笼片付け 竹林間伐、冬の施肥
12月9日(土) 協力隊	伊豆の国市 葦山 竹林整備と地元交流会 10:00~15:00
12月10日(日) 協力隊	横浜国際プール 10:00~15:00 竹林の間伐(竹垣材)と冬の施肥
12月12日(火) 協力隊	こどもの国 竹林の間伐 10:00~15:00
12月14日(木) 協力隊	中井町 竹林の間伐 10:00~15:00
12月16日(土) 協力隊	小机城址市民の森 10:00~15:00 竹林の間伐と竹灯笼片付け

竹に関する情報がありましたら、どんなことでも結構です。下記宛にご連絡をお願いいたします。

E-MAIL:office141@takefan.jp URL:http://takefan.jp TEL&FAX 045-306-9993